

- 問1 13世紀後半、モンゴル帝国（元）による二度の日本侵攻、いわゆる「元寇」が起きました。この国家の危機に際し、鎌倉幕府の第8代執権として、全国の御家人を指揮して防衛を主導した人物は誰ですか。 (2026年 愛媛公立入試 類似)
1. 北条時宗
  2. 北条泰時
  3. 足利義満
  4. 源頼朝
- 問2 鎌倉時代末期、生活が困窮した武士などが幕府や荘園領主の支配に従わなくなり、武装して年貢を奪うなどの抵抗活動を行うようになりました。このような、既存の支配体制を乱した集団を当時の領主側は何と呼びましたか。 (2018年 茨城県公立入試 類似)
1. 悪党
  2. 蝦夷
  3. 公領
  4. 御家人
- 問3 武家政権の歴史において、鎌倉幕府を創設した源氏の棟梁として、のちに室町幕府を開いた足利尊氏や、平安時代末期に権勢を誇った平清盛と区別される人物は誰ですか。 (2021年 岩手県公立入試 類似)
1. 源頼朝
  2. 平清盛
  3. 豊臣秀吉
  4. 足利尊氏
- 問4 元寇の際、博多湾に防塁を築くなどの防衛策を指揮した人物と、その拠点となった場所の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2015年 佐賀公立入試 類似)
1. 北条時宗 - 博多湾の沿岸
  2. 北条泰時 - 相模湾の沿岸
  3. 源頼朝 - 志摩半島の沿岸
  4. 足利尊氏 - 瀬戸内海の沿岸
- 問5 鎌倉幕府が「六波羅探題」という機関を新たに設置した目的と、その背景にある出来事の説明として最も適切なものを選びなさい。 (2016年 茨城県公立入試 類似)
1. 後鳥羽上皇が倒幕の兵をあげた承久の乱の後、朝廷を監視し西日本の統治を強化するため
  2. モンゴル帝国の襲来（元寇）に備え、九州沿岸の警備と西国武士の指揮を執るため
  3. 源頼朝が征夷大将軍に任命された際、京都の公家との外交交渉を円滑に進めるため
  4. 室町幕府の内紛である観応の擾乱を受け、京都の治安維持を専門に行うため
- 問6 鎌倉時代に起こった出来事について、その背景や目的を含めた時系列の組み合わせとして正しいものはどれか。承久の乱後の朝廷監視、武家独自の裁判基準の作成、元との戦いにおける指導者の登場、御家人の困窮への対策という順序で考えなさい。 (2024年 山形公立入試 類似)
1. 六波羅探題の設置 → 御成敗式目の制定 → 北条時宗の執権就任 → 永仁の徳政令
  2. 御成敗式目の制定 → 六波羅探題の設置 → 北条時宗の執権就任 → 永仁の徳政令
  3. 六波羅探題の設置 → 北条時宗の執権就任 → 御成敗式目の制定 → 永仁の徳政令
  4. 北条時宗の執権就任 → 六波羅探題の設置 → 永仁の徳政令 → 御成敗式目の制定
- 問7 北条氏が執権として実権を握っていた鎌倉時代、農業技術の向上によって広まった、同じ田畑で米と麦を交互に生産する栽培方法と、当時用いられた肥料の組み合わせとして正しいものを選択してください。 (2023年 茨城県公立入試 類似)
1. 二毛作を行い、草や木を焼いた灰を肥料として利用した
  2. 二毛作を行い、干し鰯や油かすを肥料として購入した
  3. 三毛作を行い、家畜の糞尿を加工した堆肥を肥料とした
  4. 輪作を行い、海外から輸入された化学肥料を利用した
- 問8 1221年に起こった承久の乱について、その背景と内容を説明した文として最も適切なものはどれか、次のうちから選びなさい。 (2019年 香川公立入試 類似)
1. 源氏の将軍が途絶えた後の幕府の混乱を見て、後鳥羽上皇が政治の実権を取り戻そうと挙兵した。
  2. 平氏の勢力が強まったことに不満を持った後鳥羽上皇が、源氏と協力して平氏を倒した。
  3. 北条氏の執権政治に反対した足利尊氏が、後醍醐天皇と協力して幕府を滅ぼした。
  4. 源頼朝が死んだ直後、朝廷内で権力争いが起こり、上皇が武士を排除するために兵をあげた。
- 問9 鎌倉時代において、3代執権の北条泰時が制定した、武士社会の慣習に基づいて裁判の基準を明確にした法典の名称を答えなさい。 (2025年 栃木公立入試 類似)
1. 御成敗式目
  2. 武家諸法度
  3. 養老律令
  4. 十七条の憲法
- 問10 鎌倉時代に宋から日本へ伝えられた「禅宗」は、それまでの仏教と異なり、座禅による修行を通じて自分自身の力で悟りを開こうとするものでした。この禅宗のうち、福井県に永平寺を建てて「曹洞宗」を広めた人物として正しいものは誰ですか。 (2021年 山口公立入試 類似)
1. 栄西
  2. 道元
  3. 親鸞
  4. 一遍
- 問11 鎌倉幕府における将軍と御家人の関係において、将軍が御家人に対して行う「御恩」の具体的な内容として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 和歌山公立入試 類似)
1. 将軍の命を受けて、幕府の警備や合戦への参戦を行うこと
  2. 将軍から、先祖伝来の領地の支配を認められたり、新たな領地を与えられたりすること
  3. 将軍によって各国に配置され、国内の軍事・警察権を行使すること
  4. 将軍から任命され、荘園や公領の管理と年貢の徴収を行うこと
- 問12 鎌倉時代、承久の乱のあとに領地をめぐる争いが増えたことを受け、三代執権の北条泰時が制定した武家独自の法律を何といいますか。 (2026年 三重公立入試 類似)
1. 御成敗式目（貞永式目）
  2. 十七条の憲法
  3. 武家諸法度
  4. 建武の新政
- 問13 鎌倉時代初期、後鳥羽上皇が朝廷の文化的な伝統を誇示し、台頭する武士に対抗する意図を込めて編纂を命じた勅撰和歌集はどれか。 (2016年 香川公立入試 類似)
1. 万葉集
  2. 古今和歌集
  3. 新古今和歌集
  4. 金槐和歌集
- 問14 鎌倉時代の武士の家において、それまで行われていた「分割相続」には、ある重大な社会的な弊害がありました。その内容として正しいものはどれですか。 (2022年 静岡公立入試 類似)
1. 世代交代を繰り返すたびに一族の領地が細分化され、生活が困窮する武士が増えた。
  2. 長男のみがすべての領地を継ぐようになったため、次男以下の不満が高まり反乱が頻発した。
  3. 幕府が土地の売買を全面的に許可したため、有力な商人にすべての領地が買い占められた。
  4. 土地を分割する際に面積ではなく収穫量で分けたため、気候変動による飢饉の影響を強く受けるようになった。

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 北条時宗	鎌倉幕府の最高責任者である執権の地位にあり、フビライ・ハン率いる元軍の襲来に対して徹底抗戦の構えを貫きました。九州の博多湾沿岸に石築地（元寇防塁）を築かせるなど、大規模な防衛体制を整えたことで知られています。選択肢にある北条泰時は3代執権、源頼朝は初代将軍、足利義満は室町幕府の第3代将軍です。
問2	答え 1 悪党	鎌倉時代後半、分割相続による領地の細分化や、元寇（モンゴル襲来）後の恩賞不足によって、多くの武士の生活が苦しくなりました。その中で、幕府や荘園領主の命令に従わず、実力で年貢を奪ったり武装して反抗したりする勢力が現れました。領主側は彼らを既存の秩序を破る「悪」の集団と見なしてこのように呼びました。
問3	答え 1 源頼朝	1185年に守護・地頭を設置する権限を認めさせ、1192年には征夷大将軍に就任して鎌倉幕府の体制を整えました。平清盛は武士として初めて太政大臣となりましたが、その政権は貴族的な性格を強く残していました。足利尊氏はのちの南北朝時代に室町幕府を開いた人物です。
問4	答え 1 北条時宗 - 博多湾の沿岸	モンゴル軍の襲来に対し、鎌倉幕府の8代執権である北条時宗は、九州に所領を持つ御家人だけでなく、本来は幕府の支配下になかった公家領の底本（非御家人）に対しても異国警固番役を課すなどして、博多湾の防衛体制を強化しました。幕府はその後も三度目の襲来を警戒し、防塁の修復や警備を継続しました。
問5	答え 1 後鳥羽上皇が倒幕の兵をあげた承久の乱の後、朝廷を監視し西日本の統治を強化するため	承久の乱以前の幕府は、主に関東を中心とした支配を行っていましたが、乱の勝利によって西日本にも大きな支配力を持つようになりました。朝廷による倒幕の動きを二度と許さないよう、監視の拠点として六波羅探題を設置し、西日本の地頭の統制や裁判も担わせることで、幕府による全国支配が強まるきっかけとなりました。
問6	答え 1 六波羅探題の設置 → 御成敗式目の制定 → 北条時宗の執権就任 → 永仁の徳政令	鎌倉時代は1221年の承久の乱を経て、京都に朝廷を監視する六波羅探題が置かれたことで幕府の支配力が全国に及びました。その後、1232年に北条泰時が武士の慣習に基づいた御成敗式目を制定し、公正な裁判の基準を確立しました。時代が下ると、元（モンゴル帝国）の侵攻に際して北条時宗が執権として指揮を執りましたが、戦後の恩賞不足や貨幣経済の浸透で御家人が困窮したため、1297年に借金の帳消しを命じる永仁の徳政令が出されました。
問7	答え 1 二毛作を行い、草や木を焼いた灰を肥料として利用した	鎌倉時代には農業生産力を高める工夫が進み、1年の間に同じ土地で米と麦を交互に作る「二毛作」が西日本を中心に広まりました。また、肥料として草木を焼いた「草木灰（そうもくはい）」や、刈り取った草を地中に埋めて腐らせた「刈敷（かりしき）」などが使われるようになったことで、収穫量が増大しました。
問8	答え 1 源氏の将軍が途絶えた後の幕府の混乱を見て、後鳥羽上皇が政治の実権を取り戻そうと挙兵した。	鎌倉幕府の3代将軍・源実朝が暗殺され、源氏の正統が途絶えたことで幕府の結束が弱まったと判断した後鳥羽上皇は、倒幕の宣旨を下しました。しかし、北条政子が「頼朝の恩義」を御家人たちに訴えたことで幕府側が団結し、上皇側は敗北して隠岐に流される結果となりました。
問9	答え 1 御成敗式目	1232年（貞永元年）に北条泰時が制定した日本初の武家法です。承久の乱の後、幕府の支配力が広がる中で増加した土地争いなどの裁判を公平に行うため、武士社会の道徳や慣習をもとに作られました。後の時代の武家法の基本となりました。
問10	答え 2 道元	鎌倉時代には、宋（中国）に渡って学んだ僧たちによって新しい仏教が伝えられました。道元は曹洞宗の開祖であり、ひたすら座禅に打ち込む「只管打坐（しかんたざい）」を重んじ、永平寺を拠点として活動しました。一方、同じ禅宗でも、幕府の保護を受けて武士の間に広まった臨済宗の開祖は栄西です。親鸞は浄土真宗、一遍は時宗の開祖であり、これらは禅宗とは異なる浄土教系の宗派です。
問11	答え 2 1 将軍から、先祖伝来の領地の支配を認められたり、新たな領地を与えられたりすること	将軍が御家人に対して行う「御恩」には、御家人が先祖から受け継いできた領地の支配を将軍が保証する「本領安堵（ほんりょうあんど）」と、戦功を立てた御家人に新たな領地を与える「新恩給与（しんおんきゅうよ）」がありました。このように、将軍が御家人の領地を保護することが、武士たちの忠誠心を引き出す鍵となっていました。
問12	答え 1 2 御成敗式目（貞永式目）	北条泰時は、武士社会でそれまで積み重ねられてきた「ならわし」や道徳を基に、裁判の基準を明確にするためにこの法律を制定しました。これは武士が自分の手で、武士のために作った最初の本格的な法律です。聖徳太子が定めた「十七条の憲法」や、江戸時代に大名を統制するために出された「武家諸法度」とは、制定された時代や目的が異なります。
問13	答え 3 3 新古今和歌集	鎌倉時代は武士が政治の実権を握り始めた時期ですが、伝統的な公家文化も依然として高い権威を持っていました。後鳥羽上皇は、承久の乱を起こして幕府に挑んだ政治家としても知られますが、文化面でもこの歌集の編纂を通じて朝廷の存在感を示そうとしました。
問14	答え 1 4 世代交代を繰り返すたびに一族の領地が細分化され、生活が困窮する武士が増えた。	鎌倉時代に一般的だった分割相続は、子孫が増えるたびに土地が細かく分けられる仕組みであったため、数世代経つと一人の御家人が得られる収入は極めてわずかなものになってしまいました。この状態を「領地の細分化」と呼びます。武士は自力で軍装備を整えなければならなかったため、この経済的な困窮は御家人制度の根幹を揺るがす深刻な問題となりました。のちにこの弊害を避けるため、一人の子がすべてを継ぐ単独相続へと変化していくこととなります。